枕

ほうづえもかたぶく月の詠め哉

病身捨世始無憂　儀禮不修杖郡州　何本截成何本失　一林瘦竹吾菟裘

〔新撰字鏡木〕枕旅卽反、隅也、木理也、材也、阿保己、

〔倭名類聚抄十四行旅具〕枕　聲類云、枕音力、和名阿布古、杖名也、

〔箋注倭名類聚抄六行旅具〕按、諸字書、枕訓木理及縣名、無訓杖者、不知聲類何據、或是枴字之訛略、廣韻枴、老人拄杖也、古買切、此云音力者、當是見譌省作枕、就字音之、猶篺省作篺、就字音兒之類、然四時祭式、西宮記擬階奏條等、皆用枕字、爲荷物杖、新撰字鏡亦音枕云旅卽反、則其誤不自源君始也、又按、三才圖會云、木檐負禾具也、其長五尺五寸、剡匾木爲之者、謂之輭檐、斫圓木爲之謂之總檐、匾者宜負器與物、圓者宜負薪與禾、是可以充阿布古也、檐卽擔字、用木造、故變從木耳、

〔下學集下器財〕枴（アウコ）杖也、古買反、日本之俗呼擔物杖云枴也、

〔書言字考節用集七器財〕總擔（ニナヒボウ）　輭擔（同俗云天秤棒）　椿（同）　總擔（アフコ俗云天秤棒）　枕（同上）

〔倭訓栞前編二阿〕あふこ　倭名鈔に枕をよめり、杖名也と注せり、新撰字鏡にはあほこと訓せり、あげ枠の義なるべし、歌に多く逢期によせたり、あとおとかよふ例あり、負木（オフコ）の義にや、今の俗おごといへり、山おごは輭擔、旅おごは匾擔也といへり、平治物語に竹枕といふ事も見えたり、野人てんびん棒ともいへり、

〔物類稱呼四器用〕枴あふこ（物をになふ木なり、はしとがりたるをいふ、）　中國及西國にてあふこと云、長崎にてらこといふ、四國にてさすといふ、江戸にてでんびんぼう、（物をになふ木にて、兩の端丸く、あふこと形少しかはれり、）京にてたごのぼうと云、越後にてかたげぼうと云、奥の仙臺にてかつぎぼうと云、遠州にてになひぼうと云、大坂及堺或は四國にてあふこと云、九州にてろくぢやくぼうと云、肥後にてもつこぼうと云、

〔延喜式一四時祭〕平岡神四座祭